

—2023 年度 卒業式より—

### 魂譲り（譲り手）

今日、私たちは活水女子大学での学びを終え、それぞれに与えられた新たな道を歩もうとしています。これまでの学生生活を振り返ると、様々な出会いや経験で多くのことを学びました。そこには喜びや楽しさだけでなく、思い悩むことや苦しいこともありました。そんなときも家族や友人、先生方、多くの人に支えられ、今日という喜びの日を迎えることができました。

活水学院は今から 145 年前、愛と奉仕を建学の精神として掲げ、「この学院に連なる全ての者が、いつまでも渴くことのない活ける水を豊かに汲み取り、永遠の命を得るように」との祈りを込め、エリザベス・ラッセル先生が創立されました。この手桶には、その思いが満ち溢れており、ここに結ばれてきたリボンの一本一本には、先輩方の祈りが込められ、活水の伝統として今もなお受け継がれております。

今回私は、卒業生を代表して、「白」と「天（あま）色」のリボンを新たに結び加え、在学生の皆様にお譲り致します。「白」のリボンには、「誠実で何事にも動じない人になってほしい」との願いを、「天色」のリボンには「天からの恵みを受け取り、どこまでも広がる可能性をつかむ人になってほしい」との願いを込め、お譲り致します。

在学生の皆様、どうかこの 2 本のリボンに込められた思いを心に留め、「活ける水を汲み取るもの」となってください。皆様の歩みの支えとなるよう、「新約聖書 フィリピの信徒への手紙 4 章 13 節の御言葉、「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。」をお贈り致します。

最後に、活水学院の上に、神様の豊かな祝福とお恵みがこれからも限りなくありますよう、心よりお祈り申し上げます。

佐々木 美優（国際文化学部 英語学科卒業生）

### 魂譲り（受け手）

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

ただいま、これまで多くの先輩方より受け継がれてまいりました手桶をお譲り頂きました。今年は新たに「誠実に何事にも動じない人になってほしい」との願いを白色のリボンに、「天からの恵みを受け取り、どこまでも広がる可能性をつかむ人になって欲しい」との願いを「天（あま）色」のリボンに託し、結び加えて頂きました。

私たち在校生は、この 2 本のリボンに込められた思いを心に刻み、「永遠に渴くことのない、活ける水」をくみ続ける活水の学生として歩んでまいりたいと思います。卒業生の皆様は、この学び舎で神様の限りない愛を受け、先生方や家族に支えられながら、友人と共に様々な体験や学びを通して成長し、そして今日、晴れの日を迎えられました。これからはそれぞれの道を歩いていかれますが、喜びや感謝の時ばかりではなく、忍耐を試される時や困難を覚える時もあるかもしれません。しかし、どのような時にも、いつも神様は共にいて先輩方の行く手を照らし、導いてくださいます。これからも愛と希望をもって、道を歩み続けてください。

最後に、今日から始まる新たな歩みの上に、神様の豊かなお恵みと祝福がありますよう、心からお祈り申し上げます。

今田 涼加（音楽学部 音楽学科 3 年）